赤そば（高嶺ルビー）の里を訪れて　　小林信生　(2017/10/15)

妻が、長野県に赤いそばの花が咲いているところがあると聞きこんできた。ソバの花と言えば、白に決まっているだろうと思ったが、ネットで調べてみると、伊那谷・箕輪町に「赤そばの里」というところがあって、今が見ごろだという。思いついたが吉日、早速、中央道を走って現地に出向く。確かに、箕輪町の中央アルプス山麓に「赤そばの里」は存在し、見事な赤い花を咲かせていた。「高嶺ルビー」という品種だそうだ。ネットで調べると以下のような説明がなされている。（以下、概略を引用）

「1970 年代後半、ヒマラヤの高山に珍しい赤い花を咲かせるソバがあることを聞いた、信州のとある大学の先生は、その地を訪れようと決心した。そこは標高 4000m 近いヒマラヤ山脈の麓、強い紫外線がふりそそぐ土地で、とても作物が育ちそうな環境ではなかったが、その先生は、荒々しい山肌に、突然現れた「そば畑の赤色」に絶句したという。それから十数年後、産学共同研究のために、ある種苗会社から 1 人の青年が、その先生のもとに派遣された。研究テーマは、地域に役立つソバの品種を作ることであった。以前ヒマラヤで見た「赤そば」の強烈な印象が、忘れられない先生は、青年とともに再びヒマラヤを訪れた。二人は、その美しい赤ソバを、日本でも栽培できる品種にしようと考え、種をヒマラヤから持ち帰ったが、その種は日本では赤い花を咲かさなかった。気候風土の違いがその大きな原因だったようだ。先生と青年は、何年もの間、気の遠くなるような研究を続けて、日本の風土に合う赤ソバの品種として改良し、植えてみた。当初は、思うような赤い色が出なかったが、品種改良を積み重ねた結果、赤色は濃さを増してゆき、ついに、2011 年、品種が認められ「高嶺ルビー2011」が誕生した。」とのこと。

実際に、「赤そばの里」に立ってみると、実に、見事である。赤色というが、名前の通り、まさにルビー色である。側にいた物知り博士が、「今年は種をまいてから、雨が沢山降ったため、一部で種が流れ、花の密集度が足らず、すけているところの色が薄い」と説明してくれた。素人写真であるが、それでも結構きれいに撮れていると自負している。

ただ、この赤そばも、そば粉を打って蕎麦にすると、どうも白花蕎麦と同じになるのようで、特に顕著な違いはないそうだ。今回、赤花そばの蕎麦を賞味する機会がなかったのは残念である。次回は「花より団子」で、ぜひ、食してみたい。

（参考）「赤そばの里」の URL を貼り付ける。例年、9 月末から 10 月上旬にかけて、「赤そば祭り」が開催されている。　https://www.minowa-town.jp/赤そばの里/

戻る（ブラウザの左上の戻るに戻って下さい）